

### 人と深い関わりのある野生生物～シカおよびイノシシの事例

- 近年、ニホンジカやイノシシの分布域が拡大し、個体数は増加傾向を示している(環境省, 2010)。それに伴い生態系被害、生活環境被害、農業被害が増加している。
- ニホンジカやイノシシの被害は古くからあり、それに対し先人は猪垣の建設などにより対抗してきた。
- 人とのあつれきの増大に対して、捕獲の促進、効果的な防除法の開発、人材登録制度などさまざまな対策が行われている。

#### 人とニホンジカおよびイノシシの対立の歴史

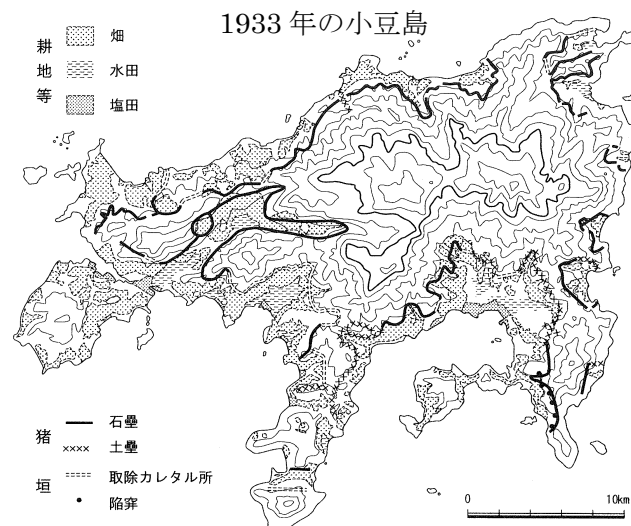
時期	ニホンジカ・イノシシにかかわる事象	背景
江戸初期	銃が農具としての役割を果たす	新田開発が盛ん
江戸中期から後期	猪垣が各地で建設される 八戸藩で 3000 人におよぶ餓死者 (天候不順やイノシシの食害が原因) 対馬でイノシシ殲滅	徳川綱吉の鉄砲改め、人口の増加
明治	野生鳥獣の乱獲 狩猟法制定(明治 28 年) エゾシカ猟の全面禁止 1 歳以下のシカの捕獲禁止	毛皮輸出の拡大
大正	シカが狩猟獣に指定される 狩猟法の全面改定(大正 7 年: 現行制度の原型)	
戦前		イタチなどの毛皮需要の拡大
戦後～1980 年前後	メスジカを狩猟獣から除外 オスジカの捕獲数を 1 日 1 頭に制限 狩猟者の増加	毛皮需要の縮小・ミンク輸入による毛皮価格の低下、農地開拓
1980 年前後～現在	メスジカの狩猟禁止措置の解除(条件付)	毛皮重要の縮小・ミンク輸入による毛皮価格の低、減反政策、イノシシなどの大物猟が増加

注：近世以前については省略

参考：神崎伸夫 (2001) イノシシと人間, 高橋春成(編), 古今書院  
三浦慎悟 (2008) ワイルドドライブ・マネジメント入門, 岩波書店

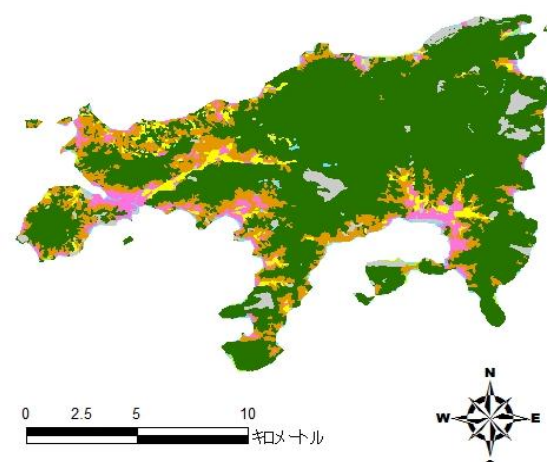
#### 1933 年の小豆島の猪垣と耕地等の分布と現在の土地利用

猪垣とは、イノシシなどの田畑への侵入を防御するために、主に江戸時代に田畑の周囲に設けた防壁のこと。小豆島では長距離にわたって、畑や水田を取り囲むように猪垣が築造されている。現在、小豆島にはニホンジカ、イノシシともに生息している。



出典：矢ヶ崎孝雄 (2001) イノシシと人間, 高橋春成(編), 古今書院, pp154

#### 現在の小豆島の土地利用



出典：自然環境保全基礎調査 第 5 回植生調査 現存植生図



小豆島の猪垣  
写真：小豆島町

凡例  
 森林 市街地  
 草地 水域  
 水田 その他  
 畑地・果樹園

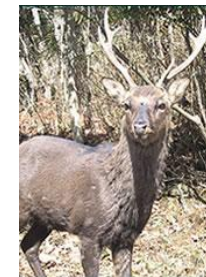
#### ニホンジカとイノシシの分布拡大状況

ニホンジカは全国的に、イノシシは特に東日本で分布拡大している。

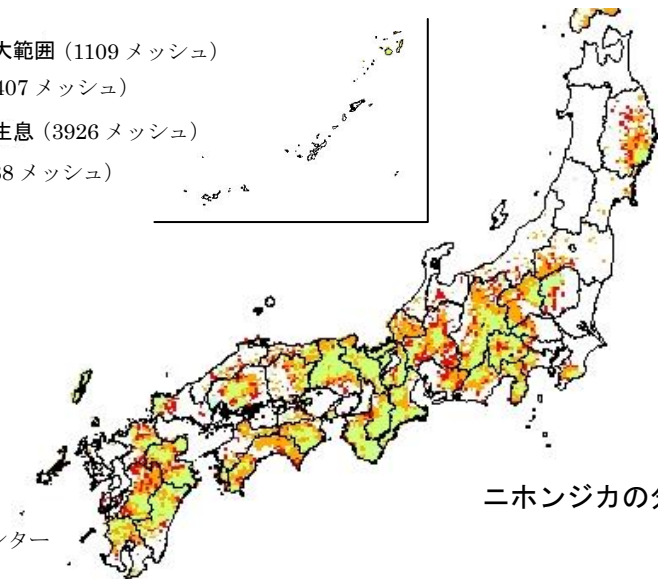
##### 凡例

- 2007-2009 年度の拡大範囲 (1109 メッシュ)
- 2003 年のみ生息 (3407 メッシュ)
- 1978 年と 2003 年に生息 (3926 メッシュ)
- 1978 年のみ生息 (288 メッシュ)

(注 1, 2, 3, 4)



写真：(財) 自然環境研究センター



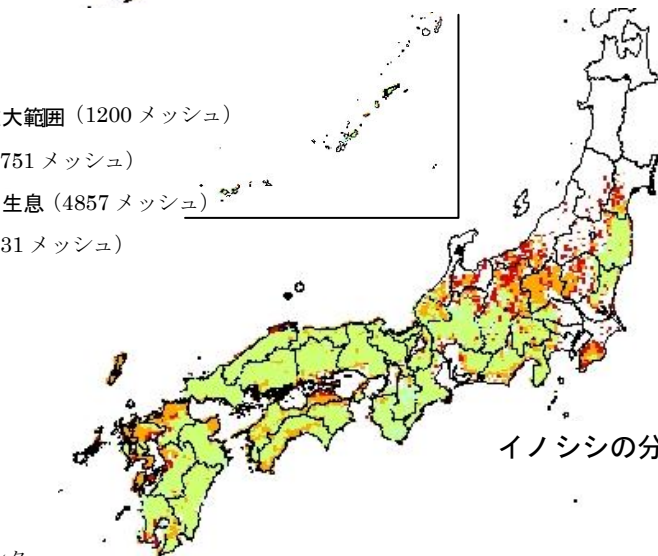
ニホンジカの分布

##### 凡例

- 2007-2009 年度の拡大範囲 (1200 メッシュ)
- 2003 年のみ生息 (1751 メッシュ)
- 1978 年と 2003 年に生息 (4857 メッシュ)
- 1978 年のみ生息 (331 メッシュ)



写真：(財) 自然環境研究センター



イノシシの分布

注 1: 2007-9 年度のデータは暫定的なものである。

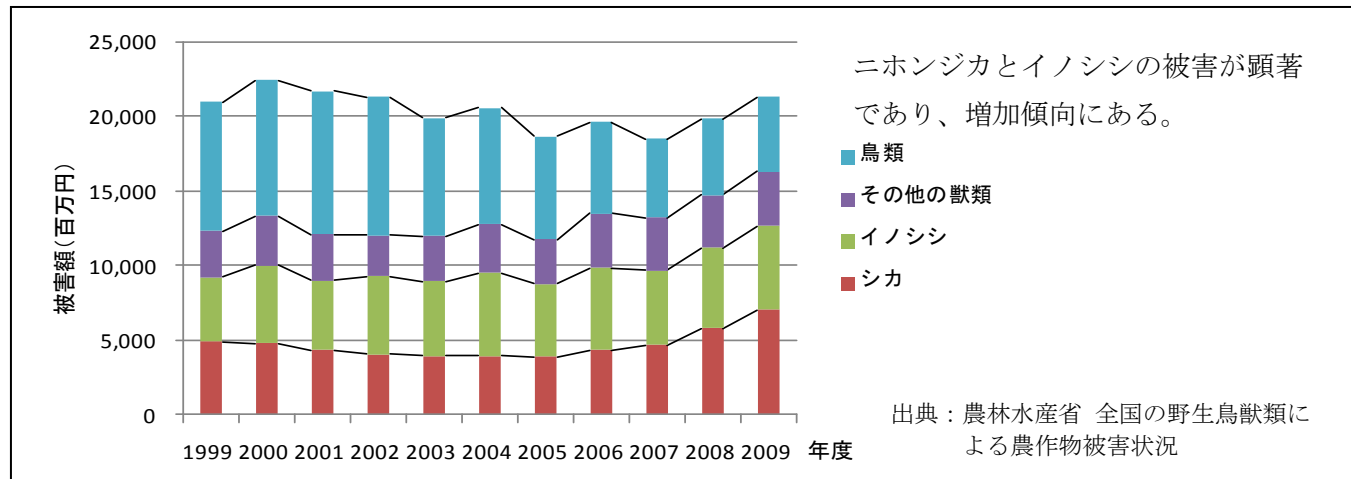
注 2: 1978 年、2003 年、2007-9 年度ともに 5km メッシュ。

注 3: 2007-9 年度の拡大データは 2007-9 年度間の狩猟及び捕獲許可(有害鳥獣駆除および特定鳥獣保護管理計画)による捕獲位置報告で報告のあったメッシュのうち、種の多様性調査の 2003 年の生息域でなかったメッシュである。なお、狩猟及び捕獲許可による捕獲位置報告は、3 年間の狩猟者等による捕獲位置の報告として、都道府県・環境省地方環境事務所からの報告を使用している。そのため、一部に誤報告と考えられるデータが含まれる。

注 4: 北海道は 2007-9 年度の捕獲報告がなかったため、表示していない。

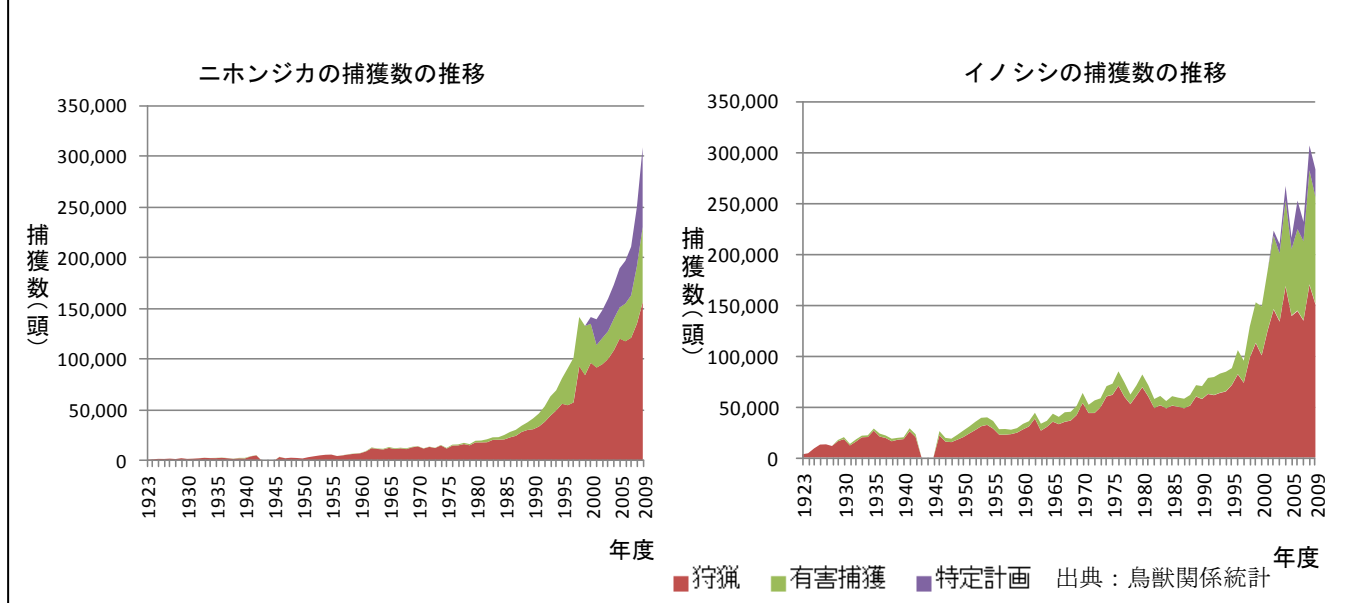
出典：1978 年及び 2003 年：自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 2007-9 年：狩猟及び捕獲許可(有害鳥獣駆除および特定鳥獣保護管理計画)による捕獲位置報告

**野生鳥獣による農作物被害額の推移**

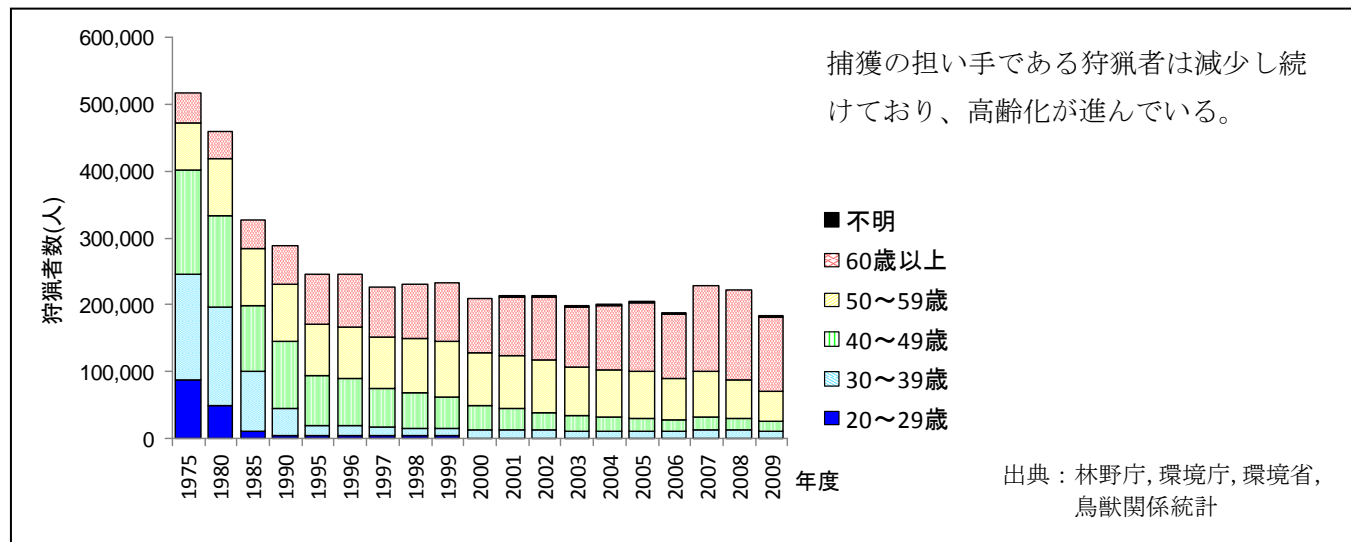


**ニホンジカとイノシシの捕獲数の推移**

ニホンジカ、イノシシともに1990年前後から捕獲数が急増している。



**狩猟者数の推移**



**さまざまな取り組み**

<法制度>

- ・1999年 鳥獣保護法の改正（特定鳥獣保護管理計画制度の創設）
- ・2008年 鳥獣被害防止特別措置法施行

<利用>

- ・食肉加工場および衛生マニュアルの整備
- ・ジビエ（イノシシ・シカ肉）を地域おこしに活用（和歌山県など）

<防除>

- ・効果の高い電気柵の開発
- ・獣害に強い地域づくりの促進（兵庫県など）

<普及啓発>

- ・地方自治体などによる対策講習会の実施

<人材活用>

- ・鳥獣保護管理に係る人材登録事業（環境省）

鳥獣保護管理に関する取組について専門的な知識や経験を有する技術者を登録して、地方公共団体等の要請に応じて、登録者の情報を紹介する仕組み。鳥獣保護管理を実施する個人や団体を登録の対象とする。



シカ肉を使った料理  
写真：和歌山県畜産課

**BOX ニホンジカやイノシシによる人身被害や交通事故等の最近（平成23年）の事例**

**死亡やケガ**

○ **シカの角に刺されて死亡**  
山口県下関市豊田町殿居の雑草地で、同市豊北町の男性（68）が右太ももから血を流して死んでいるのを家族が見つけた。長府署は暴れたシカの角が男性に刺さったとみて詳しく調べている。

○ **イノシシに襲われ男性大けが**  
香川県高松市郊外の住宅街で散歩をしていた男性（78）が、近づいてきたイノシシに襲われ、右腕をかまれた。男性は自分で警察に通報して救急車で病院に運ばれ、3週間の大けがを負った。

**自動車事故**

○ **イノシシ9頭と正面衝突**  
岐阜県岐阜市日野南の国道156号で、近くに住む男性（32）が運転する軽乗用車がイノシシ9頭と衝突し、9頭全てが即死した。岐阜県警中署によると、軽乗用車は道路外に飛び出し、街路樹などに衝突して大破。男性は鎖骨骨折と左手挫傷の大ケガを負った。

○ **シカをよけて衝突**

北海道別海町上春別付近で、警察車両は車道に飛び出してきたシカを避けようとして急ハンドルを切ったところ、対向車線側に逸脱。対向車線を順走していたトラックの右側面部に衝突。弾みでトラックは路外に逸脱して横転した。

**鉄道事故**

○ **特急とシカ衝突**  
三重県と岐阜県で19日、JRの特急列車とシカが衝突する事故が3件相次いだ。いずれも乗客にけがはなく、それぞれ約10～18分遅れで運転を再開した。

○ **トンネルにシカ2頭、列車通れずに大幅遅れ**  
静岡県浜松市天竜区のJR飯田線大嵐～水窪駅間の大原トンネル（5062メートル）にシカ2頭が迷い込んでいるのを上諏訪発豊橋行き上り普通列車（2両、乗客5人）の男性運転士が見つかり、列車を急停止させた。その後、警笛を鳴らしながら低速走行や停止を繰り返し、約2時間20分かけてトンネル出口まで追い出した。トンネル内は単線のため、行き違う予定の下りの普通列車も約1時間45分遅れた。

※いずれも地方紙掲載記事を抜粋・要約